



地下水膜ろ過システム [令和2年12月15日 病院正面入口の右側に設置] ※本誌6ページにて紹介。

## CONTENTS

### “新春のあいさつ”

伊藤 博 院長 ..... P.1

●新型コロナウイルス感染症..... P.3  
に対する当院の対応

●診療科紹介（眼科）..... P.5

●「地下水膜ろ過システム」..... P.6  
の導入について

●地域医療連携だより..... P.7

●INFORMATION

令和3年  
新春号

Vol.66



## 新春インタビュー

院長 伊藤 博

皆様、新年明けましておめでとうございます。  
本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

Q. 昨年を振り返っていかがでしたか。

A. 例年であれば華やいだ気分で迎える新年ですが、今年は様相が異なります。

令和2年2月に横浜のクルーズ船からの新型コロナウイルス感染者の受け入れから始まり、昨年来の新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、当院では一般病床23床を感染患者の専用病床にあて、年明けまでに延べ120人以上の入院治療にあたってまいりました。

新型コロナウイルス感染症の診療に従事する医師・看護師・その他のスタッフに感謝するとともに、大変誇りに思っています。

また、発熱外来も開設し、現在までに延べ1500人以上が受診しています。直近の陽性率が8〜9%と高いことから、当地域でも新型コロナウイルスが蔓延していることがうかがえます。

さて、当院は1950年に開設し、昨年11月1日に創立70周年を迎え、本来であれば、記念式典の開催や記念誌の発行などを予定していました。新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、いずれも中止せざるを得ませんでしたが、創立記念日に合わせて「ヒポクラテスの木」の植樹だけは行うことができました。

更に、昨年のもう一つの大きな事業は、病院機能評価の更新審査でした。本来は6月に予定されていましたが、こちらも新型コロナウイルスの影響を受け、12月に延期して実施いたしました。

1月中旬現在、まだ結果は届いていませんが、サーベイヤーからは大変好意的な評価を多くいただくことができたと記憶しています。



正面玄関左側に植樹した「ヒポクラテスの木」

※「ヒポクラテスの木」については、「INFORMATION」(裏表紙)でご紹介しています。



**Q.** しばしば「Withコロナ」の状況が続くと思われていますが、どのようにお考えですか。

**A.** こうした状況下で、新型コロナウイルス感染患者さんの受け入れを続けていかなければなりません。当院の地域における公的機関としての役割、つまり救急医療、周産期医療、がん診療などの政策医療にも力を入れ、地域の方々からの信頼に応えていきたいと思っております。



伊藤院長

「コロナとの戦いはおそろしくまだ続くと思われませんが、コロナ禍で働く職員に対しては様々な支援を行い、安心感・信頼感を得ながら、この状況を乗り切っていきたいと思えます。

**Q.** 今後の展望について教えてください。

**A.** 長期的展望としては、診療機能の維持・向上を常に図りながら、病院としての付加価値を高めることが必要と考えています。つまり、来院される患者さんの診療だけではなく、「地域住民の健康を守る」という基幹病院としての役割についても考えたいと考えています。

例えば、昨年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止しましたが、一昨年に開催した「親子ふれあい病院体験」のような企画は、地域の皆様との交流を通じて、職員との繋がりが強化され、将来の赤十字サポーターを増やすことにも繋がる非常に大切なものと考えています。

**Q.** 院長室に「赤べこ」が飾られています。今年の丑年に合わせて飾られているのですか？

**A.** 「赤べこ」は福島県の会津地方の伝説に出てくる牛を模した置物で、その昔、天然痘が流行したときに「赤べこ」が現れて厄病を退散させた、或いは災害時に赤べこが現れてその地域を災害から救ったなど言い伝えられています。



院長室に飾る「赤べこ」

その他にも、大阪の薬の神様が祀られている少彦名神社の「首ふり虎」なども飾っています。迷信かもしれませんが、少しでも早くこの疫病が退散するようお願いしています。

本年も深谷赤十字病院をどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 新型コロナウイルス感染症に対する 当院の活動について

### 感染管理室

当院は「第二種感染症指定医療機関」として、感染症患者さんの受け入れを行っています。

このコロナ禍に限らず、**常時、感染対策を実践**するとともに、患者さん・病院職員・お見舞いの方・院外関連企業の方など、**病院に出入りするすべての人を病院感染から防護**し、安全で質の高い医療の提供に資することを責務として日々さまざまな感染対策活動を行っています。

また、当院では「院内感染防止対策委員会（ＩＣＣ）」を設置し、当院における病院感染防止・対策に関する諸問題の最終審議を行っています。

更に、ＩＣＣの下部組織として、院長から一定の権限を委譲された「インフェクション・コントロールチーム（ＩＣＴ）」が実践的な活動を担っています。このチームは、医師・看護師・薬剤師・検査技師・事務職員等から構成されており、組織横断的に活動しています。

その活動拠点として「感染管理室」があり、平時よりＩＣＴラウンド（院内の清潔環境調査・改善活動）や感染予防教育等を行っています。

次に、新型コロナウイルス感染症に対して、感染管理室が中心となって取り組んできた内容について紹介します。

#### ① 対策会議の開催

令和2年2月に、本来の診療活動を継続しつつ、感染防止策を行いながら、様々な課題を解決する目的で、新型コロナウイルス感染症「院内対策本部」を設置しました。

これまで、定期的に対策会議を開き、新型コロナウイルス感染症に対する対応方針をはじめ、当院独自の流行状況区分（フェーズ）を作成し、これに基づく各種感染対策（正面玄関での検温と発熱申告のお願い、実習生や研修生の受け入れの可否、面会制限・禁止等）や、院外での対応などについて随時検討・決定してきました。

#### 院内対策本部

- 本部長
- 副本部長
- 感染管理室…各班の調整や技術指導
  - ・ 患者治療班…発熱外来、入院
  - ・ 感染制御班…職員や患者の対応
- ・ 総務班…院内周知、物品調達、委託業務、  
医事・情報システム
- ・ 対外活動班…院外活動調整、報告、情報収集

## ② 発熱外来の実施

令和2年2月に埼玉県からの依頼を受け、「発熱外来」を開設し、10月に「埼玉県指定 診療・検査医療機関」に指定されました。

暑さと寒さの直撃を受けるプレハブでの診察は大変でしたが、通常の外来と分けてスムーズに診療を行うことができるように、国の新型コロナウイルス感染症対策の補正予算を活用し、12月に冷暖房完備の発熱外来を駐車場脇に新設しました。

感染管理室では、保健所からの診察・検査の依頼、患者さんからの電話相談などを受け、発熱外来の受診調整をしており、看護部・放射線科・薬剤部・医事課（事務）など多くの部署が協力しながら発熱外来の診療を行っています。

※「発熱外来」を受診希望の方は、必ず事前に電話連絡をお願いします。

## ③ 感染管理

新型コロナウイルス感染症の特徴として、無症状の方が多く存在すること、発症する2日前から感染力があることが挙げられます。感染拡大防止のため、第一に熱のある患者さんを院内に入れない工夫をしています。診察後に患者さんや保健所から陽性判明を告げられることがあります。

そのため、職員が濃厚接触者とならないようユニバーサルマスキング（※）と手指衛生の徹底、必要に応じた個人防護具の着用などによる「標準予防策」を実施しています。

※すべての人々は感染源にならないように、人込みに立ち入る場合はマスクを常に着用しようというもの。



新設した発熱外来

## ご来院の際は…

正面入り口において、すべての入館者へ手指消毒・マスク着用の徹底と「赤外線サーモカメラ」による検温をお願いしています。

発熱などの症状がある方は、予約診療を含め、受診前に正面入り口にて必ず職員へお申し出ください。

## 赤外線サーモカメラの導入

これまでは、非接触型体温計で検温を実施していましたが、令和2年12月より、赤外線サーモカメラ（右写真）を導入いたしました。

テレビ画面の上に付いているカメラで一人ひとりの顔を認識し、同時に複数人の検温が可能となりました。



また、職員で新型コロナウイルス陽性者が発生した際には、緊急対策会議を開催し、通常よりも対象者を広げたPCR検査の実施、業務制限や健康観察の強化などを行ってきました。幸いにも感染拡大を防ぐことができました。これまで救急医療を含め、入院・外来とも通常の診療体制を維持しています。

今後も、新型コロナウイルスに関する診療や対策に病院全体で努めてまいりますので、引き続き、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



発熱外来での診療の様子



**Q. 眼科は、どのような診療科ですか。**

A. 現在、眼科は基本的に2診体制（常勤医師2名、非常勤医師1名）で、診察・外来治療・手術を行っております。

**Q. 深谷日赤の眼科の特徴を教えてください。**

A. 手術を月曜日午後・水曜日午後に行っています。主に白内障手術を中心にっており、日帰り～1泊2日の入院になります。



副部長 橋本 英明

**Q. 手術以外で入院は可能でしょうか？**

A. 可能です。原田病や視神経炎などに対し、入院で点滴治療を行っています。

**Q. 外来ではどのような治療を行っていますか？**

A. 主な内容は次のとおりです。

- ・ 中心窩下脈絡膜新生血管を伴う加齢黄斑変性症、糖尿病黄斑浮腫、網膜静脈閉塞症に伴う黄斑浮腫、病的近視における脈絡膜新生血管などに対し、抗血管内皮増殖因子薬（抗VEGF薬）の硝子体注射を、日帰りで行っています。
- ・ 糖尿病網膜症、網膜裂孔、網膜静脈閉塞症等に対する網膜光凝固術を行っています。
- ・ 眼内レンズ挿入眼の後発白内障に対する後発白内障切開術を行っています。
- ・ 視野検査と眼底三次元画像解析（OCT）を用いて、視神経乳頭周囲の神経線維層や黄斑部の網膜神経節細胞層の厚さを評価し、早期緑内障の検出を行っています。

**Q. 地域の皆様に向けて一言お願いします。**

A. 当科で対応可能な疾患は全て対応し、適切な治療を行っていく所存です。この地域で眼病にお困りの方のお役に立てるようスタッフ一同努めてまいります。また、当科で対応できない眼疾患や難症例に関しては、当該疾患の専門医が在籍する病院・クリニック等にご紹介し、患者さんに最大のメリットがあるようにいたします。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

## ～「地下水膜ろ過システム」設置のご案内～

令和2年12月15日（火）より、地下水を利用した給水設備「地下水膜ろ過システム」の本格稼働を開始しました。

この設備は、地下水に膜ろ過処理を行い、より安心・安全な水を供給することができます。



「地下水膜ろ過システム」

地下水・膜ろ過処理後の水は、定期的な水道法の水質検査をクリアしており、良質な水を毎時12 t 製造（稼働時間22時間）しています。

また、深谷市上水道からの供給と併せることで、水源が二重化となり、災害発生時や上水道の断水時においても、安定的に水を確保できるとともに、非常用電源に接続することで、停電時にも使用することが出来ます。

当院は、厚生労働省から地域災害拠点病院に指定されており、災害時にも必要な医療提供が行えるように、通常時に使用している電力の6割程度の発電容量を備えた自家発電装置や、日ごろ病院運営で使用している量の水を3日分確保しています。

しかし、近年の災害時の水道の復旧日数（右図）が示すように水の確保は重要です。

これまで、地下水を院内の空調設備やトイレに利用していましたが、災害時においても医療用水及び飲料用水を確保し、病院機能を維持出来るよう本システムを導入いたしました。

また、本システムの導入により、現在当院が使用している水量の7割～8割を賄うことができるため、経費の節減にも繋がります。

更に、1日の製造量から院内使用分を除いても、1日約50 t（※）の水量が確保出来るため、断水時や災害時において、地域住民の皆様にも供給することを目指しています。

※ 1人1日あたりの必要な飲料水を2ℓとした場合、約2.5万人分に供給できる量です。

### <近年の災害時の水道の復旧日数>

阪神・淡路大震災	：約3か月
東日本大震災	：約5か月
熊本地震	：約3.5か月



病院正面入り口の右側に設置



稼働のスイッチを回す伊藤院長



蛇口から流れる綺麗な地下水

## <地域の皆様へのご案内>

### 当院を受診の際は、紹介状をご持参ください。

当院受診の際（初診時）は、他の医療機関からの紹介状（診療情報提供書）をご持参いただくことをお勧めします。

紹介状（診療情報提供書）をご持参いただいた場合は、国が定める初診時選定療養費（医科5,500円・歯科3,300円）のご負担がなくなります。

#### 連携医療機関のご紹介

##### 清水病院

住 所 〒369-1412 秩父郡皆野町皆野1390-2  
電 話 0494-62-0067  
院 長 白川妙子  
診 療 科 内科、胃腸内科、リハビリテーション科、  
皮膚科、外科、糖尿病内科、形成外科、  
耳鼻咽喉科  
休 診 日 日曜、祝日  
受付時間 午前9時～12時



##### 院長先生からのメッセージ

当院は地域のニーズにきめ細かに対応できるように、本年度（令和2年度）からサブアキュート症例の速やかな受け入れを強化し、また新たに皮膚科、形成外科、耳鼻科の在宅診療も始めました。

今後とも埼玉県西部地域の医療の一端を積極的に担っていきたいと考えています。

##### しみず歯科クリニック

住 所 〒360-0853 熊谷市玉井5-101-1  
電 話 048-531-4182  
院 長 清水 篤  
診 療 科 歯科、矯正歯科、小児歯科、口腔外科  
休 診 日 木曜、日曜、祝日  
診 療 時 間 (午前) 9時～12時30分  
(午後) 2時30分～7時  
※土曜は(午前) 9時～13時30分  
(午後) 2時30分～4時30分



##### 院長先生からのメッセージ

当院は、小さなお子様から高齢の方まで幅広い層の患者様に来院いただいている地域密着型のクリニックです。患者様とのコミュニケーションを大切にし、わかりやすい説明と納得いく治療を心掛けています。

これからも皆様の生涯のお口の健康管理を任せていただけるよう努力していきます。



# 地域医療連携だより



## 深谷赤十字病院は地域との 医療連携に努めています。

初期診療や慢性の継続診療などは、「かかりつけ医」の先生に診ていただき、専門的な検査や診察、また入院が必要な治療は病院が受け入れるという役割分担を行うことで、地域の皆様が継続して適切な医療が受けられるような体制を維持しています。

### 連携医療機関のご紹介

#### しばさき耳鼻咽喉科

住 所 〒366-0052 深谷市上柴町西3-9-2  
電 話 048-570-0033  
院 長 柴崎 修  
診 療 科 耳鼻咽喉科  
休 診 日 水曜、土曜午後、日曜、祝日  
診 療 時 間 (午前) 9時～12時30分  
(午後) 3時～6時  
※土曜は午前9時～12時30分



#### 院長先生からのメッセージ

中耳炎やアレルギー性鼻炎など、耳・鼻・のどの一般的な診療から、めまいのリハビリテーション、補聴器の装用指導も行っております。定期的な聴力検査、耳垢除去、喫煙されている方には声帯チェックをお勧めいたします。当院は、アルカス熊谷を応援しております。

#### 河田医院

住 所 〒360-0842 熊谷市新堀新田503-1  
電 話 048-532-6022  
院 長 河田政之  
診 療 科 内科、神経内科  
休 診 日 月曜、土曜午後、日曜、祝日  
診 療 時 間 (午前) 9時～12時  
(午後) 2時30分～6時  
※土曜は午前9時～12時



#### 院長先生からのメッセージ

当院は、内科、神経内科の診療を行っています。  
神経内科専門医として、パーキンソン病などの変性疾患、頭痛、ふるえ、物忘れなどの診療を特徴としています。よろしくお願いいたします。

# INFORMATION

当院は令和2年11月1日(日)をもちまして、創立70周年を迎えることが出来ました。

その記念として、かつてコス島から株分けされ、県内の小川赤十字病院で大きく育っている由緒ある『ヒボクラテスの木』を少し分けていただき、記念樹として植樹しました。

正面入り口に向かって左側の芝生に植えられた苗木は、まだ高さが約2.5m、幹は約3cm程とまるでごぼうのように細い木ですが、患者さんをはじめ、ご来院される方々や職員に見守られ、少しずつ生長しています。



植樹の様子

## 『ヒボクラテスの木』とは・・・

医学の祖・ヒボクラテスが、コス島(ギリシャ領)のプラタナスの大樹の陰で弟子たちに医学を教えたという言い伝えに由来し、医療倫理や医学教育のシンボルとして、株分けされたその木の子孫が多くの病院や医学部のある大学に植樹されています。

日本にもいくつか苗木が持ち込まれ、昭和55年の日本赤十字社創立100周年記念に植樹された、通称‘日赤株’は、育成後に全国の赤十字施設に配付されました。

## 栄養課からの人気食おすすめレシピ

### — 白身魚のみそクリームかけ —

まだまだ寒い日が続いていますね。そんな日に、身体も心も温まる1品「白身魚のみそクリームかけ」を紹介します。濃厚でクリーミーなソースが魚とよく合い、ご飯がすすみます。

日本の伝統食品である“みそ”を、たまには洋風にアレンジしてみませんか？

#### 作り方

- ①白身魚を皮がこんがりするまで焼く。
- ②鍋に、味噌、牛乳、砂糖を入れてなめらかになるまで混ぜ、火にかける。  
こげないようにかき混ぜながら煮立たせ、水溶き片栗粉でとろみをつけ、火を止める。
- ③①の焼きあがった魚に、②のみそクリームをかけて完成。

☆写真は、青のりを添えましたが、ねぎや粉チーズもおすすめです。お好みでどうぞ。

#### 材料(2人分)

- 白身魚……2切れ
- 味噌……大さじ1杯
- 砂糖……小さじ1杯
- 牛乳……80ml
- 片栗粉……小さじ1杯(水で溶いておく)
- 青のり……お好みで



深谷赤十字病院

日本赤十字社

〒366-0052 深谷市上柴町西5丁目8番地1  
Tel 048-571-1511(代)  
<http://www.fukaya.jrc.or.jp/>

Vol.66 令和3年1月28日発行  
編集発行: 深谷赤十字病院  
広報・公聴委員会